

主日礼拝9月25日（日）

題 「天からの声はイエスを通して」

テキスト：ペトロの手紙Ⅱ 1章1節16～21節

皆さん、おはようございます。

今日の聖書の個所の小見出しには、「◆キリストの栄光、預言の言葉」と記されています。少し難しく思える言葉ですが、今日の聖書個所に記されている内容を、聖書の日本語への翻訳者が簡単にまとめてくれているのです。元々は小見出しはありません。時に助かることもありますし、なくても良いのにとすることもあります。

わたしは、今日の個所から「天からの声はイエスを通して」、つまり神さまのご意思はイエスさまを通して語られ表れた、ということを受け止めさせてもらった思いがしました。聖書のことばに耳を傾けたいと思います。

「16:わたしたちの主イエス・キリストの力に満ちた来臨を知らせるのに、わたしたちは巧みな作り話をういたわけではありません。わたしたちは、キリストの威光を目撃したのです。」

ペトロは、彼がイエス・キリストのことを語って伝えるのは、彼が思いついた巧みな作り話などではない、と言います。ちなみに「キリストの力に満ちた来臨」とは、すこし言葉が分かりにくいですが、神さからの救い主であるメシアがこの地上にやって来られたということ。そのような信仰、希望や願いや祈りがイスラエルの民には昔からあったのです。子どもさんびかには、クリスマスの時期によく歌われて来た、そのような内容の子ども讃美歌もあります。「昔ユダヤの人々は 神さまからのお約束 尊い方のお生まれを うれしく待って おりました。」そして 十字架に死なれて人間の罪を担われたイエスは、復活され、やがて再び地上にやってこられるという希望の信仰が初代教会には起こったのです。「主イエス・キリストの力に満ちた来臨」とは、そのことだと思われます。この力は神さまの威厳ある力ですが、と同時に主イエスは地上で神の愛の働きをなされ、自分の持っていた力を十字架に捨てて救いの業を成すというものでした。イエスさまの地上の歩みを見る時、神さまの愛の力は、低く小さくなることによってすべての人を救うという働きなのだと思われます。

そして、神の力と働きは、作り話に基づくのではなく、ペトロと弟子たちの目撃証言に基づくのだと語られているのです。それが、「わたしたちは、キリストの威光を目撃したのです。」ということばで宣言されていると思われます。

わたしたちは、ここですぐに福音書に記されたイエスの山上の変貌の出来事を思い出すことができます。この出来事は聖書では、マルコによる福音書、マタイによる福音書、そしてルカによる福音書にも記されています。

マタイ福音書 16 章 21 節以下 (p 32) 読んでみます。

「17: 荘厳な栄光の中から、「これはわたしの愛する子。わたしの心に適う者」というような声があつて、主イエスは父である神から誉れと栄光をお受けになりました。」「わたしの心に適う者」とは、「わたしはこれを喜ぶ」とも訳せるようです。

そして「18: わたしたちは、聖なる山にイエスといたとき、天から響いてきたこの声を聞いたのです。」とペトロは語っています。

この山上の出来事は、その場にいた弟子たちにとって生涯忘れるこのできない、神の偉大な力と栄光を表す出来事となり、それが人々に伝えられて行つたと思われます。

ペトロは、

「 19: こうして、わたしたちには、預言の言葉はいつそう確かなものとなつていきます。」と語っています。つまり、ここで言われる「預言の言葉」とは、旧約聖書のことばです。「預言」とは、「神さまから預かつた言葉」のことです。ですから「預言者」とは、神さまのことばを預かつてそれを人々に語る者ということになります。ちなみに偽預言という人たちもいたのです。自分勝手にあたかも自分の思いや考えを神の預言のように語る人々もいたのです。

大切なことは、救い主、メシアがやがて地上に来られるという約束は、イエス・キリストの誕生によって実現したということです。それがわたしたちが毎年祝うクリスマスの大きな喜びの出来事なのです。今年も共に祝います。ですから救いの根拠、救いの確かさは、人間的な条件によるのではないということです。年齢や性別や、地位や知識や職業などによるのではない。人間のまじめさや、熱心さや、家柄や組織や国家や伝統ですらないのです。救いは、ただ神の独り子イエス・キリストを土台とすることによるのです。これが福音の中心であり根本なのです。今日は日本キリスト教団では「世界宣教の日」と定められています。神の子イエスさまと、イエスさまが命をかけて教えてください、互いに愛し合う、大切にしようことを心に刻む日だと思つています。希望を持って言葉と行いで愛なるイエスを伝えるのです。

さて、ペトロは自然を用いた美しいことばで離散していた信者たちに語りかけています。

19 節の途中から「夜が明け、明けの明星があなたがたの心の中に昇るときまで、

暗い所に輝くともし火として、どうかこの預言の言葉に留意しててください。」とあります。

「暗い所に輝くともし火として」とありますが、「暗い所」とは、「薄暗い場所」と訳している聖書もあります。わたしはある時、明け方、まだ外が薄暗い中、修禱館の2階から曲田山上空を見た時、そこに輝いている星が小さくとも凜と輝いていたのです。明けの明星だと思っているのです。また「夜が明け、明けの明星があなたがたの心の中に昇るときまで、暗い所に輝くともし火として、どうかこの預言の言葉に留意しててください。」この「ともし火」こそが、救い主イエスを表しています。その光は闇の中で輝き、消えることはないのです。「どうかこの預言の言葉に留意しててください。」これもペトロの愛する信徒たちへの遺言のようにも思えるのです。

ここに共に集うわたしたちも、聖書のことばを心に蓄えること、これが最後に救いの保証となってくれることをわたしは信じます。

最後に愛からでる警告のようにペトロは語ります。

「20:何よりもまず心得てほしいのは、聖書の預言は何一つ、自分勝手に解釈すべきではないということです。」

「聖書のことばを自分勝手に解釈すべきではない。」このことばは、まさに、長年、日本で起こって来た闇の問題を思い起こさせます。つまり、日本における旧統一教会の働きについてです。多くの被害者が出ており、今、政治家との関わりも大きな問題となっています。そのほとんどが日本の政治の中樞を長年担って来た自民党議員の人々です。もう日本では、テレビや新聞、雑誌などでかなり明らかになっていますのですでにご存じの方も多いと思いますが、

聖書の読み方ということから語らせて頂きます。

問題とされている、旧統一教会の創始者は、文鮮明（ムン ソンミョン）という韓国人です。決して韓国の人が悪いということではないのですが、彼は聖書のことばを自分勝手に都合のよいように解釈して利用して来たといえるのです。旧約聖書の創世記を利用して、日本はエバ国であり、韓国はアダム国であるとみなし。エバは罪を犯したのだからエバ国である日本がアダム国である韓国に金銭で尽くさねばならないと自分の本に書いていると言われています。信者への勧誘に関しては、アンケートや、占い、ビデオなどを利用して、系図を出しては不安に導き、あたかも洗脳するかのように、組織に献金をすれば、崇りなどから救われるとし誘導し、莫大なお金を出させて来たのです。多くの被害にあった信者たちが、だまされたとして、得に最近では、信仰2世たちが、親がこの教団に貢ぐお金で家が貧困家庭になり、家庭が崩壊し、子どもの時から

苦しんで来た若者たちが受けた被害を証言し声を上げて来ています。

被害者を生み出した第一の理由は、創設者が自分の野望とも言えることのために聖書のことばを自分勝手に解釈し利用したことから始まっていると言えます。またその旧統一教会と関係をもって来た政治家たちの影響も見逃すことはできないことなのだとされています。

ともかく、聖書を聖書のことばを、自分勝手に利用することは誰しも戒めなければならないのです。

「21:なぜなら、預言は、決して人間の意志に基づいて語られたのではなく、人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語ったものだからです。」とされています。

わたしたちは、聖書を読む時、聖書を語る時は、まず祈って読む、そこに神の力である聖霊は働いてくださるのです。静かに祈って聖霊の導きの中、御霊に動かされて読み、祈って語る、また聞くという習慣を持ちたいものと改めて教えられました。

日常生活の中でイエスの名で祈って語れば、神さまはわたしたちの心を整え、守り用いてくださる、導いてくださるのです。

聖書の読み方は、イエス・キリストを中心に置いて、イエスさまが教えてくださった、「神を愛し人を愛する」ということを基準・基本にすることに尽きると思われるのです。

主の平安を祈ります。